

緊急消防援助隊の車両・資機材の整備による効果的な救助活動の実施

3か年緊急対策

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要：石川県内各地で発生した大雨に伴う土砂災害において、整備した車両・資機材を活用し、情報収集・各部隊への情報共有を行うとともに、後方支援体制を確立し、効果的な救助活動が実施することができた。

対策名：35 大規模災害等緊急消防援助隊充実強化対策<5か年加速化対策>【総務省】

- 実施主体：総務省消防庁
- 実施場所：石川県輪島市、珠洲市等
- 事業概要：近年、激甚化・頻発化する土砂・風水害や切迫する南海トラフ地震等に備え、緊急消防援助隊の対応力を強化するため、車両・資機材の配備を実施した。
- 事業費：50.1億円(平成30年度～令和5年度)※全国の事業費

主な事業	実施内容	事業費	実施期間
緊急消防援助隊の車両・資機材の整備	・ 小型救助車24台	約50.1億円	H30～R5
うち3か年緊急対策	・ 津波・大規模風水害対策車（小型バギー等積載）19台 ・ 中型水陸両用車及び搬送車4台 ・ 大型水陸両用車及び搬送車1台 ・ 重機及び重機搬送車28台	約36.9億円	H30～R2
うち5か年加速化対策	・ 拠点機能形成車6台 ・ 情報収集活動ドローン37台	約8.7億円	R3～R5



大型水陸両用車が現地にて人員、資機材を搬送するなど活動を行った



小型バギーが現地の泥濁地などで人員を輸送するなど活動を行った



重機が要救助者の搜索救助活動のため流木を除去するなどの活動を行った



小型救助車が悪路や狭い地域において救助資機材を輸送するなどの活動を行った

■ 整備による効果：石川県内で発生した令和6年9月20日からの大雨に伴い、家屋やトンネルなどに土砂が流入したり、河川の決壊で家屋が流されるなど、多数の被害が発生した。ドローンを活用した情報収集・各部隊への情報共有を行い、各水陸両用車、小型救助車により泥濁地など悪路を走行し、資機材や人員の搬送を実施するとともに、重機により土砂排除を実施した。また、拠点機能形成車を活用して隊員の宿営場所を設営するなど後方支援を行った。以上により、13日間、緊急消防援助隊が効果的な救助活動等を実施することができた。